

2023年11月期第2四半期決算説明会(オンライン開催) 質疑応答要旨
(開催日時：2023年7月7日(金) 16時～17時)

1. 全体	
Q. 通期業績の見通しは？	A. 第2四半期の実績は概ね通期業績予想の範囲内と考えている。 通期業績予想に際し、ファインケミカル事業は海外経済の減速懸念等を踏まえて保守的に見ており、第2四半期の業況は概ねこの範囲内にあると見ている。 加えて、足元の需要動向等から下期の業況について慎重に見ている。 以上を踏まえ通期業績予想は据え置いている。
2. 農薬事業	
Q. 国内農薬の下期の販売見通しは？	A. 販売価格が値上げになったことによる増収の基調は続くと見ている。
Q. 農薬事業の下期業績のポイントは？	A. 農薬の需要期は春先であり、上期に販売が集中する。 下期は、翌春の需要期に備えた生産に入るため、不需要期の販売減少の一方で、製造コストがかかってくるという事業特性がある。
Q. 農薬事業の通期業績見通しは？	A. 農薬事業の通期業績予想から大きな変動はないと見ている。
3. ファインケミカル事業	
Q. 中国市場の樹脂分野(石化用触媒)の動向は？	A. 石化用触媒(主にTPP)は、特に第2四半期に入り、中国経済の減速による需要減少等の影響を受けており、中国国内向け販売が減少している。 なお、2023年度の通期業績予想の策定に際し、中国経済の減速懸念等を踏まえて中国子会社の業績は堅めに見ている
Q. 電子材料分野/半導体の動向は？	A. 半導体関係は、封止剤用の硬化促進剤であり、TPPの誘導体が中心になる。半導体の後工程に使用されるため、景気動向の影響を受けやすい特性がある。 足元では半導体業界の在庫調整等により需要が低迷しているが、大手顧客は将来の需要増に備え設備投資を行っており、長い目で見れば伸びる分野と見ている。

<p>Q. 電子材料分野/フォトレジストの動向は？</p>	<p>A. 電子材料のうち約70%がレジスト関係。 このうち、KrFが約75%、ArFが約2%、EUVが約15%である。 KrFの伸びが大きく、レジストメーカーは強気の姿勢である。</p> <p>半導体工程の前工程であるフォトレジスト工程は成長に備え在庫積み増しが行われるため、販売は堅調である。</p> <p>ただし、足元では前工程でも在庫が積み上がり、レジスト関係の伸びがスローダウンしている。</p>
<p>Q. 生産能力拡充の予定は？</p>	<p>A. ファインケミカル事業の製造設備は、岡山工場内に九つのプラントと、中国張家港北工に二つのプラントがあり、これまでに概ね5年ごとにプラントを建設してきた。</p> <p>2022年11月期には、レジスト製造設備の増強を実施し、製造能力は概ね1.2倍となっている。また、樹脂分野では合成第9工場の反応缶を増設し、合成第9工場の製造能力は概ね1.2~1.3倍になっている。</p> <p>今後とも、需要動向を見定めつつ、新プラント建設の検討や既存設備の活用などを通じて、計画的に生産能力増強に取り組んでいく考えである。</p>

本資料に記載されている業績予想・将来の見通しに関する記述等に関しては、現時点で得られた情報に基づいて判断・算定したものであり、実際の業績は、今後のマクロ経済動向および市場環境、並びに当社グループに関連する業界動向、またその他内部・外部要因等さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。